

令和7年1月7日

さいたま市長 清水 勇人 様

さいたま市社会福祉審議会
児童福祉専門分科会
(地方版子ども・子育て会議)
会長 山中 冴子

さいたま市子ども・子育て支援事業計画「第2期さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」令和5年度進捗状況について（具申）

令和6年度さいたま市社会福祉審議会児童福祉専門分科会（地方版子ども・子育て会議）において、標記計画における令和5年度進捗状況及び評価について審議し、本分科会の意見を別紙のとおり具申いたしますので、ご配慮ください。

「第2期 さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」
令和5年度進捗状況及び評価について

令和5年度の事業評価については、全152事業中、「A：達成」、「B：概ね達成」と評価した事業が、141事業（92.8%）となっており、多くの事業が順調に進められています。

中でも、保育所等利用待機児童の対策においては、令和6年4月時点の待機児童数は0人で、3年連続で待機児童ゼロを維持することができており、これまでの保育所等整備・拡充や既存の子育て資源の活用による受け皿確保の成果が見受けられます。

一方で、放課後児童クラブの待機児童数は、令和6年4月時点で299人となっており、昨年度から34人減少したものの、高まるニーズに対し、十分に応えることができていない状況と見受けられます。今年度から新たにモデル事業を開始した放課後子ども居場所づくり事業については、待機児童の解消に対し、一石を投じることが期待される一方で、こどもまんなかの視点から、子どもたちに落ち着きや安心感が持てる居場所をどう提供するかという視点も重要と考えますので、両方の視点から検証を進めることを求めます。

また、当分科会において委員から出された意見や質問の中には、次期計画の策定にあたっての課題と考えられるものもありましたので、市において十分に検討されることを望みます。

今後も、多様化する子ども・子育て支援に関するニーズに柔軟かつ速やかに対応するとともに、「さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」に沿った施策が着実に遂行されることを求めます。

<委員からの意見等>

- ・子どもショートステイ事業について、受け入れ施設を増やすことも大切だと思いますが、既存の施設へのフォローや、利用者と施設のマッチングの部分など、ソフト面での支援も必要だと考えます。
- ・子育てWEB事業について、モニタリングやアンケートの実施によるニーズの把握、Webサイトの活用方法の検討など、アクセス数増加のための取組が必要だと考えます。
- ・子どもの貧困対策に位置づけられている事業について、支援を受ける方の心理

的ハードルが下がり、利用しやすくなるような配慮や工夫をしてください。

・単に実績値だけ見るのではなく、現場の声や現場が抱える課題に目を向けた、適切な目標設定及び事業評価が行われることを望みます。